

カレンダー 暦に登載された訓戒

ア、習うより慣れよ
 イ、言うなかれ今日学ばざるして来日ありと
 ウ、一輪の花が春の来たことを告げる
 エ、人こそ人の鏡なれ
 オ、何ごとにも正直を守り仕事には良く熟練する
 カ、何よりも自分の心を修めることが大切
 キ、悲しみがあれば喜びがある
 ク、人の有様を見ておのれに恥じるのは尊い
 ケ、貪り瞋り愚かさを離れよう
 コ、悪は人から出て人をむしばむ
 サ、初一念が大事
 シ、さとりが智慧の光となって現れる
 ス、月が隠れると人びとは月が沈んだという
 セ、気がゆるんで怠らないように
 ソ、山も川も海もすべてはみなうつり変わる
 タ、小事に拘わりて大事を忘れるな
 チ、縁に触れているいろの心となる
 ツ、身も心も柔らかに
 テ、信ずる心は誠の心であり深い心である
 ト、怨みを忘れてはじめて怨みは鎮まる
 ナ、愚かにして愚かさを知る
 ニ、慈しむ仏の大悲は平等である
 ニ、縁によって生じ縁によって滅びる
 ネ、心の静かな人は安らかさを得る
 ノ、すべてのものは来ることなく去ることもなく
 ハ、さとりの道を歩むものは握りしめないこと
 ヒ、人びとは本来さとりの心をそなえている
 フ、人間の欲には 是てしがない
 ヘ、信は人の心を豊かにする
 ホ、なければないで苦しむ あればあるで苦しむ
 マ、世俗の事はあわただしく過ぎ去ってゆく
 ミ、行方を見守り行方を見失わないように
 ム、せまい心を捨てて広く他に施そう
 メ、まことの富とは財物ではなく心である
 モ、時は得難くして失い易し
 ヤ、聞くはその時の恥 聞かぬは一生の恥
 ヨ、仏の仕事は永遠に終わることを知らない
 ヨ、愚かな人は怠り智慧ある人は努め

伝言板

思いかえしの出来る人には、
 新しい人生が開けてくる。



頓着 (とんちやく)

「頓着」の語意は、「こころに
 かけること」や「気にすること」
 である。もとは貪著、貪着で
 あったのが、次第に転義して頓
 着の字があてられるようになっ
 た。この意味は悩みや迷いの
 もととなる五欲をむさぼること
 である。五官の感覚的欲望、
 或いは財欲・色欲・飲食欲・
 名誉欲・睡眠欲の五つを言う。
 含意するところは、五欲を貪り
 続ければ自縛し、迷いから抜け
 出せなくなるという戒めである。

仏教が生んだ日本語

●●●雁の群が順序よく飛んでいるように、
 群衆を導け。

雁はかぎ型か、さお型のどちらかの型をつくって
 飛んでいくそうです。
 夕方、雁の群を見上げて、
 「かぎになーれ！、さおになーれ！」
 と、大声で雁たちに呼びかけたものです。
 弘法さんも、きっと雁の群を見上げられたことが
 あるのでしょう。そして、
 「大勢の弟子たちを率いて行くには、雁のように順
 序よく整列させよう」と、
 考えられたのでしょうか。
 「リーダーは部下たちと仲よく平等にするだけでな
 く、いざ行動するときは、日ごろから上下の序列をつ
 くって、訓練しておくように教育しなさい」と、
 いわれているのです。

空海の言葉 シリーズ

こうがん ついで
 鴻鴈の序ある如く
 ぐんじょう

羣生を利濟すべし、「性霊集」

